

テストに表われた誤りの原因調査

— 否定構文読解の誤りの分析 —

加藤 剛・高橋恵亮・倉田有邦・高橋みな子

○ 調査に当って

英文読解の難しさについては日頃の生徒指導に当って種々の面で感ずるが、今回は「否定構文読解の誤り」について調査することにした。否定構文といたってもその範囲の広さと難易の度合に幅があって、どの程度のもを取り上げるかについては問題のあるところではあるが、われわれの日頃の経験から比較的問題になりそうなものをもち寄り、適当に取捨選択した。勿論高校生にとって難し過ぎるものは省いたが、今回は教科書にもしばしば見られるidiomaticなものも相当に取り入れて問題をつくった。しかしこれだけですべてを網羅したわけでは勿論なく、質、量的にまったく不十分であるが、これを足がかりに、今後更に充実したものにしていきたい。

○ 調査の対象

本校高2生徒 97名

○ 調査の方法

問題は全部で50。時間は50分。同種類の構文はなるべく連続しないように適宜配列して、その意味を日本語で書かせた。この答案を調べ、誤答を分析してその数を出し、それに基いて誤りの原因を考察した。

○ 問題

1. Nobody knows what he will be.
2. Not a few make such mistakes.
3. He showed no small skill.
4. He never goes to bed before eleven o'clock.
5. It is impossible for me to do such a difficult thing.
6. I little thought that he had failed.
7. It is not his pencil, but mine.
8. I am a musician, and not a poet.
9. Not only food but clothes were given me.
10. What is beautiful is not always good.
11. All the passengers were not wounded in

the accident.

12. Every man can not be a poet.
13. It is neither hot nor cold.
14. There is no man but knows him.
15. I could not help laughing.
16. We cannot praise him too much.
17. Little remains to be said about this problem.
18. We bought few magazines, for we had little money.
19. He seldom calls on his aunt.
20. We can hardly believe such a terrible story.
21. It was not India but America that Columbus had discovered.
22. He not only made a promise, but also kept it.
23. We are not always in good health.
24. I have not read all these English magazines.
25. I can speak neither French nor German.
26. Learning English is by no means easy.
27. There is no saying what may happen.
28. You cannot be too careful in reading a poem.
29. He had hardly heard the news when he cried out.
30. I cannot help feeling deeply interested in this question.
31. Nothing is more precious than time.
32. Few things are necessary to make the man happy.
33. They had nothing to eat.
34. Never waste anything, above all, never waste time. Today comes but once and
(a)
never returns.
(b)
35. To her astonishment, her daughter was nowhere to be found.

テストに表われた誤りの原因調査

- | | |
|---|---|
| 36. There was hardly any rain last month. | write, but he was also taught to run and |
| 37. Every man is not always a musician. | ride. |
| 38. We are not all lucky enough to be able to visit other countries. | 45. Such a thing does not happen every day. |
| 39. He never goes out without taking an umbrella. | 46. Neither my father nor his father ever saw it. |
| 40. You cannot begin the study too early. | 47. No one can read a good and interesting book without being the better and happier for it. |
| 41. Nothing gives us more pleasure than to do exercises. | 48. The sun went down; the sky grew dark; nothing was to be seen at the window but blackness. |
| 42. They had scarcely anything to eat. | 49. I never see this picture without thinking of my mother. |
| 43. It is not the reading of many books which is necessary to make a man wise or good, but the well-reading of a few. | 50. Little is known about the news. |
| 44. That boy was not only taught to read and | |

○ 結果と考察

A, not~but……

番号	正答	%	無答	%	誤答	%	誤答例	数	%
7	58	59.6	0	0	39	40.4	1. それは彼の鉛筆ではない。私のだ。 2. それは彼の鉛筆ではない。しかし私のだ。 3. それは彼の鉛筆ではない。しかし私のでもない。	13	13.4
21	77	79.3	6	6.2	14	14.5	1. コロンブスが発見したアメリカはインドではなかった。 2. それはインドではない。しかしコロンブスはアメリカを発見した。 3. コロンブスが発見したのはインドではなかった。しかしアメリカであった。 4. butを <u>しかし</u> と訳したもの(上記を含む)	4	4.2
43	30	31	30	31	37	38	1. ……しかし…… 2. ……だけでなく	31	32
								2	2.1

B, not only~but (also) ……

9	88	90.7	3	3.1	6	6.2	1. 食べ物だけでなく着物も与えられなかった。 2. 食べ物は与えられず、着物が与えられた。	5	5.2
22	75	77.5	17	17.5	5	5.2	1. 彼は約束するばかりでなく、それを守らなかった。 2. 彼は約束しなかったが、それを守った。	3	3.1
44	84	86.6	8	8.3	5	5.2	1. ……は教わったが、……は教わらなかった。 2. (was taughtがPassiveであることに気がつかぬもの。) 3. (taughtをthoughtと間違えたもの)	1	1
								12	12.4
								9	9.3

(考察) not~but……の構文を知らないものが相対的に多いことに気がつく。特に43番に多く見られるのは長文でやや複雑になっているためだと思われるが、not~but…を理解していないというよりは、その関連に気がつかないのであろうか。それに比較して21番は正答数が多い、これは構文の理解よりもIndia, America, Columbus と3つの固有名詞により内容把握がかなり容易になっているためと思わ

れる。7番で前後半とも否定の意味にとっているものがいるが、これはこの構文を理解していないとみてよかろう。

not only~but (also) については大体理解していると思われる。ただし44番の誤答例の中でかっこに入れてあるところは、not only~but (also) とは別の要素でここでは関係ないが、目立つ誤りとしてあげておいた。(両方とも正答として扱ってある)

C, neither~nor……

番号	正答	%	無答	%	誤答	%	誤答例	数	%
13	83	86.5	2	2.1	12	12.4	1. 暑いばかりでなく寒い。 2. 暑いのでなく寒い。 3. 暑くて寒くない。 4. 暑いか寒いかのどちらかである。	3	3.1
25	78	80.4	3	3.1	16	16.5	1. フランス語もドイツ語も両方とも話せる。 2. フランス語は話せるがドイツ語は話せない。 3. フランス語, ドイツ語のどちらかが話せる。	12	12.4
46	63	64.8	6	6.2	28	29	1. 私の父も彼の父もそれを見た。 2. 私の父と彼の父はそれを見なかった。 3. 私の父か彼の父はそれを見たことがある。 4. 私の父は彼の父にあっていない。	15	15.5

(考察) neither~nor…の意味を知らないための誤りが殆んどで、特に目立つのが both~and…… (又は not only~but) との混同が一番多い。その他 either~or…, not~but… との区別があいまいである。

D, cannot help~ing

15	46	47.4	5	5.2	46	47.4	1. 笑うのを助けることができなかった。 2. 笑えなかった。 3. 笑って助けることができなかった。	22	22.6
30	38	39.1	11	11.3	48	49.6	1. ~に興味を感じることができない。 2. ~に興味を感じるのを助けることができない。	22	22.6

(考察) この程度の構文は知っていてほしいと思うが、それを知らないものが意外に多い。helpを「助ける」と訳したものと、help~ingを無視している誤りが殆んどである。訳した日本語の意味が通じようと通じまいとお構いなしといったところ。

E, cannot~too

16	10	10.3	23	23.7	64	66	1. 彼をそんなに賞めることができない。 2. 彼をあまりにも賞めることができない。 3. われわれは彼にそんなに自慢できない。 4. 彼をあまりにも賞めるはずがない。	21	21.6
28	15	15.5	7	7.2	75	77.3	1. ……余りに注意深くできない。 2. 余りに注意深い筈はない。 3. ……注意深くせねばならぬ。 4. 余りに注意深くて詩が読めぬ。	36	37.2
40	9	9.3	4	4.1	84	86.6	1. 余りに(非常に)早く……できない。 2. 余りに早くて……できない。 3. 早く……できない(tooの無視)	50	51.5

(考察) 正答率は極めて低い。

1. 構文の特殊性を知らず語句のままの訳
2. too~toとの混同
3. tooの無視
4. cannot=筈がない

などの誤りが多いが、総じてこの構文を知らないものが多いと云える。

テストに表われた誤りの原因調査

F. **nevre cannot** } ~without……

番号	正答	%	無答	%	誤答	%	誤答例	数	%
39	74	76.3	2	2.1	21	21.6	1. かさを持って外出しない。 2. かさを持って出かけた。 3. かさを持って行かねばならぬ。	9	9.3
47	30	31	40	41.1	27	27.9	1. ~を除いた本, ~を除いて~, etc. (without の訳し方を知らないもの) 2. (二重否定に気づいたが being 以下の訳し方の誤り)	18	18.6
49	58	59.6	9	9.3	30	31	1. ~以外の絵, ~以外に~, etc. 2. (母の考えなしで(二重否定には一応なっている))	8	8.3
								31	32

(考察) **never (cannot) ~without~**の構文を知らなくても**without**の意味が適確に訳出できれば文意は何とかわかると思われるが, その**without**によるつまずきが多い。特に47番では文が複雑であるため文脈がつかみにくいのか, それが目立つ。

また二重否定とは別の誤り, 例えば49番の **thinking of my mother** の誤訳が多いが, **think of** を知らないものが意外に多いことと動名詞の用法が十分に理解されていないことが感じられる。

なお, 47番に無答が多いのは時間の関係で一見して難解なものは手をつけずに後まわしにしたためであろう。

G. **not always~**

10	81	83.5	5	5.2	11	11.3	1. 美しいものはいつでもよくない。	4	4.1
23	86	88.6	5	5.2	6	6.2	1. われわれは常に健康でない	3	3.1
37	57	58.8	7	7.2	33	34	1. あらゆる人はいつも音楽家でない。 2. あらゆる人はいつも音楽家ではない。(意味のあいまいなもの)	1	1
								27	27.9

H. **not~all, all~not**

11	28	29	11	11.3	58	59.7	1. 全部の乗客が負傷しなかった。 2. 全部の乗客は負傷しなかった。(意味のあいまいなもの)	33	34
24	42	43.3	5	5.2	50	51.5	1. これらの英語の雑誌を全部読んでいない。	40	41.2
38	21	21.6	4	4.1	72	74.3	1. …できるほどみんな幸福でない。 2. …できるほどみんなが幸福ではない。(意味のあいまいなもの) 3. …できるほど幸福でない (all の無視) 4. …できるのはすべて十分に幸福ではない。	17	17.5
								20	20.6
								13	13.4
								6	6.2

I. **every~not, not~every**

12	27	27.9	2	2.1	68	70	1. あらゆる人は詩人になることはできない。 2. すべての人が詩人になることは出来ない。(意味のあいまいなもの) 3. どんな人でも詩人である筈がない。 4. すべての人は詩人ではない。 5. だれでも詩人になれないということはない。	10	10.3
								29	30
								13	13.4
								4	4.1
								2	2.1
45	45	46.4	0	0	52	53.6	1. 毎日おこらない。	52	53.6

(考察) この調査で最も苦労したのがこの部分否定である。即ち正答か誤答かの判定が非常に困難である答が多い。部分否定であることに全然気づかないものもあるが, 訳出された文面では, どちらとも判定のつかないものがある。それらは一応誤答として扱った。結局, 理解と同時に日本語としての表現が問題であり, この点では指導の際注意しなければならない。

この調査では, **not always~**に関する問題が一番正答が多いが, やはりこの形が他より練習する機会が多い

教科共同研究

のと、たまたまここに出た問題が単純な短文であったことによるのであろう。not~all, not~every の場合には部分否定に気がつかないものが案外多い。

J, few ; little

番号	正答	%	無答	%	誤答	%	誤答例	数	%
6	46	47.3	8	8.3	43	44.4	1. ~と少し考えた	26	26.9
17	10	10.3	37	38.2	50	51.5	1. 全然~ない。 2. 少しのこと(小さなこと)が……。 3. remain=rememberと考えたもの。(1. 2. と重複の分を含む)	11 18 24	11.3 18.6 24.7
18	26	26.9	3	3.1	68	70	1. 少し買った, 少し金があったから。 2. 少し買った, ほとんど金がなかったから。 3. 少しも買わなかった, 少しも金がなかったから。 4. 少しも買わなかった, ほとんど金がなかったから。	23 16 15 8	23.7 16.5 15.5 8.3
32	19	19.6	12	12.4	66	68	1. いくらかの(少しの, 二三の)ことは必要である。 2. 何物も必要でない。 3. 殆んどのものが必要である。 4. 少しのことでも必要である。	47 7 4 3	48.5 7.2 4.1 4.1
50	35	36.1	9	9.3	53	54.7	1. 少しも知られていない。 2. 少しの(わずかな)ことが知られている 3. 殆んど誰も知らない。 4. 小さなことが知られる。	17 15 5 3	17.5 15.5 5.2 3.1

(考察) ここで見られる誤りの共通点は、

1. few と a few, little と a little の区別が極めてあいまいなこと。
2. 否定であることは一応わかっているが完全否定に訳しているものが意外に多いこと。

の二点であるが、要するに正確な知識が不足しているといえる。

なお6番では「ほとんど思わなかった」も一応littleの用法を知っているものとして正答に入れてある。17番ではremainをrememberと間違えたものが多かったので参考のためにあげておいた。

K, not a few

2	22	22.6	4	4.1	71	73.3	1. そんな誤りを一つもするな。 2. このような誤りを少しもしない。 3. このような誤りをすることはほとんどない。 4. そのような誤りをしてはいけない。 5. 少しの人がこのような誤りをしない。 6. ~するな(否定の命令と解したもの)(上記を含む)	22 15 7 6 3 40	22.6 15.5 7.2 6.2 3.1 41.2
---	----	------	---	-----	----	------	---	-------------------------------	---

L, no small skill

3	3	3.1	47	48.5	47	48.5	1. 彼は小さなわざも見せなかった(did not showと考えたもの)	17	17.5
---	---	-----	----	------	----	------	---------------------------------------	----	------

(考察) 2.3.番とも難問で予想通り正答が少ない。not a fewを知らないし、fewが主語になっていることがわからず、苦しまぎれに命令文にとったり、出鱈目な訳をしているものが多い。前に上げたfewとa fewの関係が分からない位だから無理もない。

3番の文ではnoがsmallにかかることを見抜けないので答は千差万別、論外なものがほとんどである。

M, hardly ; scarcely ; seldom

19	42	43.2	26	26.9	29	30	1. 時々おばを訪れる。 2. 決しておばを訪れない。	15 2	15.5 2.1
----	----	------	----	------	----	----	--------------------------------	---------	-------------

テストに表われた誤りの原因調査

番号	正答	%	無答	%	誤答	%	誤 答 例	数	%
20	55	56.6	13	13.4	29	30	1. 少しも信ずることができない。	15	15.5
							2. 真げんに信ずることができる。	6	6.2
36	54	55.8	1	1	42	43.2	1. 多くのはげしい雨がいった	14	14.5
							2. かなり多くの雨がいった。	9	9.3
							3. 少しの雨もなかった。	6	6.2
							4. いくらか雨がいった。	3	3.1
42	52	53.6	10	10.3	35	36.1	1. 食べるものを何も持っていなかった。	9	9.3
							2. ほとんど何も食べなかった。	4	4.1
							3. ほとんどどんなものでも食べた。	2	2.1
							4. 食べるべき多くのものを持った。	2	2.1
							5. 食べるためのいくらかを持った。	2	2.1
							6. ほとんど食べものをもった。	2	2.1

(考察) hardlyを「はげしい, 真げんに(=hard)」の意味にとっているものが案の定いた。36番では「多くの雨」があるがany→manyの間違いであろう。hardly, scarcelyともに「少しもない」, 「何もない」と強い否定の意味にとっているものがあるが, これらの語が否定の意味をもつということを意識し過ぎているのであろうか。seldomが他の2つに比して正答が少ないのは教科書等に出てくる頻度によるものであろう。

N, never

4	79	81.4	0	0	18	18.6	1. 寝なければならない。	5	5.2
34 (a)	23	23.7	68	70.1	6	6.2			
34 (c)	39	40.4	57	58.8	1	1			

(考察) 4番ではほとんど問題にならないが, 34番では無答が殆んどで, 時間が少いと, 少し長い問題は投げたしまう傾向があることを示している。neverで始まる命令文(a)の方が正答が少ないことは一応注意してよかろう。なお4番でneverを「ねばならぬ」と訳したものがあるが, これは39番にも見られたもので口調による感違いであろうか。

O, nobody ; nothing

1	85	87.7	1	1	11	11.3	1. だれでも～を知っている	8	8.3
31	70	72.2	23	23.7	4	4.1	1. 何もないということは時間よりも貴重である。	2	2.1
33	86	88.7	0	0	11	11.3	1. 何も食べなかった。	5	5.2
41	55	56.6	27	27.9	15	15.5	1. ～以上の喜びは何もわれわれに与えられない。	5	5.2
48	67	69	14	14.5	16	16.5	1. butを「しかし」と訳したもの	14	14.5

(考察) 殆んど問題はないが, 31, 41番はnothing~more~thanという構文によるためか他より無答が多いのが目立つ。

P, impossible ; nowhere ; but (=that~not)

5	71	73.2	6	6.2	20	20.6	1. impossible→possible	6	6.2
							2. impossible→important	11	11.3
35	44	45.5	40	41.1	13	13.4	1. ～は今ここで見つけられた。	4	4.1
							2. どこかへ行ってしまっって見つからなかった。	2	2.1
14	25	25.8	11	11.3	61	62.9	1. (しかし) 彼を知っている人はだれもない。	47	48.5
							2. 彼の外には知ってる人が1人もいない。	2	2.1
							3. だれもないが彼をしっている。	2	2.1
							4. but→「しかし」と訳したもの(上記を含む)	11	11.3

教科共同研究

(考察) 単語の覚え方が不確実であることが目立つ。35番の nowhere は知らぬものが多いが、now と here に分解して「今ここで」とやったのには恐れ入った。関係詞 but はよく理解されていない。

Q. ~and not~ ; by no means ; there is no~ing ; hardly~when~

番号	正答	%	無答	%	誤答	%	誤答例	数	%
8	81	83.5	8	8.3	8	8.3	1. 私は詩人でなく音楽家です。 2. 私は音楽家だから詩人でない。 3. 私は音楽家ではないが詩人でもない。	3	3.1
26	7	7.2	18	18.6	72	74.2	1. ~は易しくない。(「決して」を落している) 2. ~は易しいことを意味しない。 3. ~は易しい方法がない。 4. ~はそんなに易しくない。	31	32
27	52	53.6	6	6.2	39	40.2	1. 何が起きたか言うことはない。 2. 何が起きたか何もいわない。 3. 何が起きたかうわさはない。 4. 何が起きたか誰もいわない。	16	16.5
29	26	26.9	14	14.5	57	58.6	1. ~した時~を殆んど聞かなかった。 2. ~した時熱心に~を聞いた。 3. ~した時~を聞いていた。	30	31

(考察) 8番の and not~は大体においてわかっているようだが、not~but, neither~nor のような訳し方をしているのが多少みられる。

26番の by no means は誤答例にみられるように、訳し方が的確でないものと、全然理解していないものの二通りがある。1の「英語を学ぶことは易しくない」は by no means の意味を正確に把握していないとみて誤答にした。

27, 29番は構文を知らなければできないが正答数から見て、既習事項であることは間違いなく、結局正しい理解と記憶が十分でないことを示している。hardly と hard とを混同は20, 36番にもみられたことでやはり注意しなければならない。

○ま と め

否定構文については生徒がどの程度に理解しているか、非常に興味をもって調査に当たったが、答は予期していた以上に千差万別で、なかには英文の内容をかなり理解していると思われるのに、訳出の表現があいまいであるものが相当数あり、日本語そのもののむつかしさを今更ながら感じさせられる。また否定文には idiomatic な結びつきのものが非常に多く、何度も教室で習ったにも拘わらず、十分に理解できていないもの、更に全く記憶していない生徒がいて、この面の指導は相当に徹底を期する必要があるように思われる。

更に今迄の調査によって考えられることは、否定構文の読解そのものよりもそれに先立って問題にしなければならないことが相当にありそうだということである。気がついた点をあげてみると、

1. 全般的に英語の基本語法の知識が不十分である。
2. 単語のもつ意味は勿論のこと、その機能、用法についての知識、理解が不足している。

3. 文構造を理解せず、勝手な訳文を作り上げる。などである。つまり換言すれば、否定とは異ったそれ以外の要因のために否定構文の読解にまで大きく影響しているということである。この点は否定構文に限らずどの場合にも当てはまることで、言語のもつ有機性とでもいうべきであろうか。

○反 省

調査が進められるにつれて、不備な点が目立つ。

1. 調査が否定構文のごく一部であるに過ぎないこと。
2. 問題の作成に当ってその検討が不十分であること。問題文の選定、その数など。
3. 問題数に比して時間が少なかったこと。
4. 対象が高2のみに限られていること。
5. 英文和訳という一面からのみの調査であること。

などであるが、時間その他の関係で十分なことができなかったのは残念である。今回の調査はわれわれが目ざした目標の氷山の一角にすぎない。今後は更に別の角度から、あるいは別の方法で一層進んだものにしていきたい。